

陸産貝類・淡水産貝類

1	チャコウラナメクジ	被害危惧種	12	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	被害甚大種
2	オオクビキレガイ	要注目種	13	カワヒバリガイ	被害甚大種
3	コウラナメクジ	要注目種	14	台湾ンシジミ	準被害危惧種
4	マダラコウラナメクジ	要注目種	15	コモチカワツボ	要注目種
5	トクサオカチョウジガイ	要注目種	16	サカマキガイ	情報不足種
6	コハクガイ	要注目種	17	コシダカヒメモノアラガイ	情報不足種
7	ヒロマキミズマイマイ	要注目種	18	ハブタエモノアラガイ	情報不足種
8	ウスイロオカチグサガイ	要注目種	19	オリイレサカマキガイ	情報不足種
9	ヒメリンゴマイマイ	情報不足種			
10	コハクオナジマイマイ	情報不足種			
11	オナジマイマイ	情報不足種			

分類群	陸産貝類・淡水産貝類
1. 京都府内の外来生物の特徴	<p>全国的傾向として、陸産貝類の外来種は市街地周辺の住宅地・農地を中心に侵入・定着しているものが多く、その侵入経路として種苗や関連物資への混入の可能性が想定される。侵入の時期については、オナジマイマイのように江戸時代にすでに侵入していたとされるものもある一方で、マダラコウラナメクジなど近年になって確認事例が相次ぎ比較的最近に国内に侵入し、分布を拡大しつつあると推測されるものもある。京都府内の傾向も同様で、オナジマイマイに加え、比較的古い時期に侵入・定着したとされるトクサオカチョウジガイ、コオハクガイ、高度経済成長期以後に侵入したとされるチャコウラナメクジは、ほぼ府内全域の市街地や住宅地等に定着しているものと推測される。一方、マダラコウラナメクジのほか、オオクビキレガイ、ヒメリングマイマイは府内では未確認であるが、国内の動向から府内への侵入が懸念される。また、ウスイロオカチグサとコハクオナジマイマイはともに南日本に自然分布する国内外来種と考えられ、近畿地方でも発見事例が相次ぎ、今回の見直しで府内にも分布していることが確認された。</p> <p>一方、淡水産貝類の外来種も、市街地周辺の住宅地・農地や河川・水路を中心に侵入・定着している小型種が多く、近年、ウズムシ類、カワリヌマエビ類、フロリダミズヨコエビ等が全国の河川水系や市街地周辺に広がっている傾向を考えると、淡水生物の飼育水槽に購入・混入により侵入・増殖したものが自然水域に放出されたり、淡水生物や土砂に混入して運搬されたりすることにより、分布が拡大しているものと推測される。また、スクミリングガイ、コモチカワツボ、タイワンシジミの分布拡大には有効利用を期待する意図的な導入を侵入経路とする事例も想定される。カワヒバリガイは国内の淡水貝類の外来種で唯一、比較的長期間の浮遊生活期を持ち、一旦、侵入・定着に成功すると、水の流れとともに広範囲に拡大する可能性を想定する必要がある。</p>
2. 基準選定の考え方	<p>過去の京都府レッドデータブック掲載種全種の定着状況について主に文献調査から見直し、新規確認種は掲載リストに追加し、京都府基準をもとにタイプ分けを行った。</p>
3. タイプ変更・新規追加種について	<p>陸産貝類では、一部に貝類を含む他の陸産無脊椎動物等を餌とする種があり、捕食による影響が想定される他は、農作物を食害する被害や、不快生物としての生活被害、人間に対する病原生物の中間宿主としての公衆衛生上の懸念などが想定される。</p> <p>淡水産貝類では、顕著な被害・影響が想定されるスクミリングガイ、コモチカワツボ、カワヒバリガイ、タイワンシジミ以外は、国内における分布拡大の時期と状況を参考に、緊急性と重要性を総合的に勘案して、カテゴリー評価を行った。</p>
4. 対策	<p>現時点では、確認されている陸産貝類の外来種のなかで、意図的な野外導入や野外放棄を侵入経路とする種はなく、府内への侵入や府内での分布拡大は種苗や物資への混入による非意図的な経路であると推測される。府内未確認種のうち、オオクビキレガイ、ヒメリングマイマイ、マダラコウラナメクジの3種は、農地や住宅地への侵入により農業被害や生活被害の発生が懸念されることから、関係主体の連携による早期発見と除去を行うための監視体制を構築するとともに、一般府民を含めた多様な主体に対する普及啓発活動が重要であると考えられる。</p>
5. 備考	

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	チャコウラナメクジ	学名	<i>Limax marginatus</i>	目科名	異鰓目コウラナメクジ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1950年代	導入・侵入原因	植物とともに導入された可能性が高い		
②分布範囲	全国	北海道, 本州, 四国, 九州				
	府内	文献等の記録は限定的だが、各地での生息状況から考えて、府下のほぼ全域の市街地・里地に分布していると思われる。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	体長6-mm程度にまで成長する。繁殖期は冬から春先。耕作地や民家の庭先、花壇など、比較的乾燥気味の開けた環境に生息し、普通の陸産貝類が多い森林植生にはほとんど見られない。					
⑤近似種との見分方	最近、国内でチャコウラナメクジと称されているナメクジには複数種が含まれることが判ってきた。ここに学名で挙げた <i>L. marginatus</i> 以外に少なくとも2種が知られているが、それらを区別した生息情報はほとんどない。					
⑥被害状況	野菜類や観賞用植物に対する食害がある。					
⑦必要な防除対策	植物栽培におけるナメクジ被害はほとんどが本種（群）によるものと考えられる。被害が生じる場合には市販のメタアルデヒド剤などが有効である。ピールにも誘引効果があり、小規模園芸の現場では有効であろう。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	黒住（2002）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 中井克樹



©中井克樹

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオクビキレガイ	学名	<i>Rumina decollata</i>	目科名	異鰓目オカクチキレガイ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ad	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ad	原産地	地中海沿岸
	導入・侵入年代	1980年代	導入・侵入原因	種苗や農業用資材等に混入・付着して導入されるものと推測される		
②分布範囲	全国	和歌山県、大阪府、山口県、福岡県、佐賀県、熊本県など				
	府内	未発見				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、 ■農林水産業被害、 □人身・健康被害、 □生活被害 [影響内容] ■上位捕食者となる、 ■植生への影響、 □競合・駆逐、 □遺伝子かく乱、 □在来種への病気・寄生虫の媒介、 □土壌・環境攪乱、 □希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、 ■環境適応性が高い、 ■繁殖能力が高い、 □拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、 □被害が大きい、 □特殊性、 □回復困難性					
④生態的特性	殻高3--4-mmの細長い巻貝で、夜行性。野菜類を広く摂食する。他のカタツムリ類やナメクジ類を捕食することもあり、欧米ではこれらに対する天敵としても利用されているが、実際の効果は不明である。					
⑤近似種との見分方	成長すると、螺塔の先端部が切れたように欠損し、類似した殻をもつ陸産貝類は国内には存在しない。					
⑥被害状況	野菜類に対する被害が知られている。					
⑦必要な防除対策	被害が生じる場合にはメタアルデヒド剤などが有効であるが、まずは見つけたら捕殺するなどして、分布の拡大や定着を阻止することが重要である。大阪府でも分布域が拡大しつつあり、特に農地等への侵入を警戒する必要がある。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	松隈ほか、2006					
⑩特記事項 ※該当にチェック	□IUCNワースト100、 □日本生態学会ワースト100、 □特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 遊佐陽一・中井克樹



©遊佐陽一

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コウラナメクジ	学名	<i>Limax flavus</i>	目科名	異総目コウラナメクジ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Bb	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Bb	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	昭和時代（戦前）	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州から九州				
	府内	京都市，冠島				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	「キイロナメクジ」の和名で197-年代ごろまでの文献に記録が散見されるが、同時期に拡大を始めたチャコウラナメクジ類と混同されている可能性もあり、分布・生態に関して信頼できる情報はきわめて限られている。さらに、チャコウラナメクジの拡大により本種が競争的に排除されているとの指摘もある。					
⑤近似種との見分方	「キイロナメクジ」と呼ばれたように、背面は黄色味を帯びた褐色で、ぼんやりした濃淡の模様が認められることがあるが、チャコウラナメクジのような明瞭な暗色斑はない。					
⑥被害状況	不明					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	多那瀬・垂井（1972） 黒住（2002）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 中井克樹						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マダラコウラナメクジ	学名	<i>Limax maximus</i>	目科名	異総目コウラナメクジ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Bd	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	2000年代	導入・侵入原因	植物とともに導入された可能性が高い。国内では園芸用資材や種苗に混入して拡大しているものと推測される。		
②分布範囲	全国	茨城県, 長野県, 島根県, 北海道など				
	府内	未発見				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、<input checked="" type="checkbox"/>農林水産業被害、<input type="checkbox"/>人身・健康被害、<input checked="" type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input type="checkbox"/>植生への影響、<input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、<input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、<input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input checked="" type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	体長1-cmを超える大型のナメクジで、国内での確認事例は住宅地など開けた環境であり、おそらく物資や種苗等に随伴が侵入経路である可能性を併せて考えると、乾燥に対する耐性がかなり強いものと推測される。					
⑤近似種との見分方	成体では体サイズが著しく大きいこと、背面全体に明瞭なまだら模様があることから、他のコウラナメクジ類や在来のナメクジ類との区別は容易。					
⑥被害状況	海外では外来種として農作物被害が報告されている。国内でも、外来のコウラナメクジ科のナメクジが複数種定着しており、農業被害を及ぼしているものもあり、本種による被害も想定される。					
⑦必要な防除対策	被害が生じる場合にはメタアルデヒド剤などが有効であると考えられるが、まずは見つけたら捕殺するなどして、分布の拡大や定着を阻止することが重要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 中井克樹						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	トクサオカチョウシガイ	学名	<i>Allopeas javanicum</i>	目科名	異総目オカクチキレガイ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	要注目種	タイプ(2005)	Ca	原産地	東南アジア
	導入・侵入年代	昭和時代（戦前）	導入・侵入原因	園芸植物や資材等に混入・付着して導入されたものと推測される		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）、四国、九州、琉球列島				
	府内	府南部、舞鶴市（分布情報は限られているが、府内の市街地を中心に広く分布するものと推測される。）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	殻高約13mm。熱帯原産と推測され、著しい寒さには弱いようである。乾燥に強く、庭先や農地など、開けた環境にも生息する。					
⑤近似種との見分方	他のオカチョウシガイ類と同様、螺塔が細長く白っぽい殻色であるが、殻皮が灰色を帯び、表面に粗い成長脈があり光沢がないことが特徴。					
⑥被害状況	詳細は不明					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	決定版生物大図鑑・貝類；北海道の外来種リスト；黒住，2000					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、 * <i>Paropeas achatinaceum</i> という学名も用いられている。					

（執筆者） 遊佐陽一・中井克樹

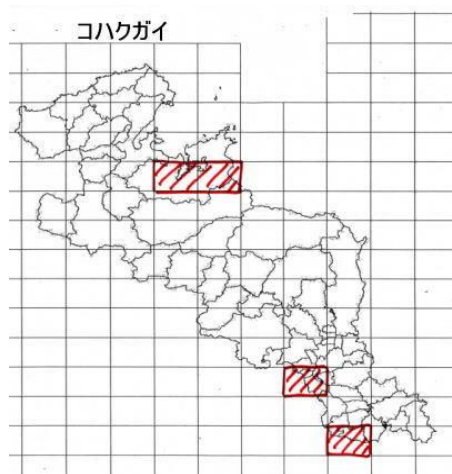


©中井克樹

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コハクガイ	学名	<i>Zonitoides arboreus</i>	目科名	異総目コハクガイ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ca	原産地	北米
	導入・侵入年代	明治時代	導入・侵入原因	園芸植物や資材等に混入・付着して導入されたものと推測される		
②分布範囲	全国	北海道, 本州, 四国, 九州				
	府内	府南部, 舞鶴市 (分布情報は限られているが、府内の市街地を中心に広く分布するものと推測される。)				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	殻幅約5mmで、平巻き状。殻は赤みを帯びた褐色で、殻表は平滑だが光沢は強くない。全国に広く分布し、住宅地や畑地など開けた環境で増殖することがある。					
⑤近似種との見分方	北海道や東北に生息するオオコハクガイに比べ、より小型で臍孔が小さい。ベッコウマイマイ科のなかに、殻の大きさや概形、色調が似た種がいるが、本種が生息するような開けた環境で見られることはほとんどない。					
⑥被害状況	詳細は不明					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	決定版生物大図鑑・貝類；北海道の外来種リスト；黒住，2000					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

(執筆者) 遊佐陽一



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒロマキミズマイマイ	学名	<i>Menetus dilatatus</i>	目科名	異鰓目ヒラマキガイ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Cc	国リスト カテゴリー	検討対象となった がリストから除外
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	2000年代	導入・侵入原因	観賞用生物への混入して導入された可能性がある		
②分布範囲	全国	山形県（最上川）、愛知県（庄内川）、徳島県（那賀川）、滋賀県（琵琶湖）など				
	府内	未確認（滋賀県・琵琶湖水系では複数個所で確認）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	-					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 中井克樹						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ウスイロオカチグサガイ	学名	<i>Solenomphala debilis</i>	目科名	新生腹足目カワザンショウ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	沖縄・奄美諸島（こ
	導入・侵入年代	2000年代	導入・侵入原因	農業用資材・種苗等に混入		
②分布範囲	全国	中部地方以西の西日本各地				
	府内	京都市（桂離宮）、舞鶴市（個人宅）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	殻高5mm程度のタニシ形で、螺層周辺部は丸い。河川周辺の水際環境で発見されることが多いが、庭先など完全な陸上環境でも見つかることがあり、園芸作物や資材とともに分布拡大している可能性が指摘されている。					
⑤近似種との見分方	タニシ科貝類と殻の概形は類似するが、本種の成貝と同サイズのタニシ科貝類は胎児殻の成長段階にあたり、殻の概形は丸みを帯び、螺塔の巻き数が少ないことにより、本種と区別できる。					
⑥被害状況	被害については不明であるが、発見される場合にはしばしば高密度で生息することから、生息場所での生態系等に影響を与える可能性が推測される。					
⑦必要な防除対策	被害が生じる場合にはメタアルデヒド剤などが有効であると思われるが、まずは見つけたら捕殺するなどして、分布の拡大や定着を阻止することが重要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 中井克樹						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒメリンゴマイマイ	学名	<i>Helix aspersa</i>	目科名	異総目リンゴマイマイ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Bd	国リスト カテゴリー	検討対象となった がリストから除外
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	2000年代	導入・侵入原因	植物・物資に混入して持ち込まれた可能性が高い		
②分布範囲	全国	大阪府、茨城県、千葉県				
	府内	未発見				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	殻径3cmのカタツムリで、殻高が高く丸みのある概形をしている。殻の表面には濃淡の明細模様があり、色帯をめぐらす個体もある。ヨーロッパでは食用になる種で、有名なエスカルゴの近縁種。かなり乾燥の強い環境にも生息することができる。					
⑤近似種との見分方	在来種のウスカワマイマイと殻の概形がよく似ているが、大型の卵サイズを反映して胎殻部分が大きく、拡張部の巻きの様子を比較すると区別が可能。また、成長するにつれ、殻の明細模様や色帯が明瞭となった場合には区別が容易。					
⑥被害状況	海外では外来種として農作物被害が報告されている。乾燥に強いことが予想され、農地にも侵入し作物を食害する可能性がある。					
⑦必要な防除対策	被害が生じる場合にはメタアルデヒド剤などが有効であると考えられるが、まずは見つけたら捕殺するなどして、分布の拡大や定着を阻止することが重要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 中井克樹						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コハクオナジマイマイ	学名	<i>Bradybaena pellucida</i>	目科名	異総目オナジマイマイ科
	カテゴリー(2019)	情報不足種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	九州等（国内外来種）
	導入・侵入年代	2010年代	導入・侵入原因	農業用資材・種苗等に混入		
②分布範囲	全国	関東以西の本州、四国、九州				
	府内	八幡市、木津市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input type="checkbox"/>生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>殻径2-mm弱のマイマイ。耕作地や民家の庭先、花壇など、比較的乾燥気味の開けた環境に生息し、普通の陸産貝類が多い森林植生にはほとんど見られない。近縁の国外外来種オナジマイマイと生態的にも類似しているが、秋になると産卵のために殻が薄質化して死亡するなど、生活史はオナジマイマイと異なっている。</p>					
⑤近似種との見分方	<p>オナジマイマイと酷似しており、貝殻での識別は難しいが、生きた個体では和名のとおり螺層部分が軟体部の色が透けて黄色く見えることが最大の区別点である。在来のマイマイ属各種よりはるかに小型であるが、同サイズの幼貝とは多少似る。本種は、殻表面がなめらかで火焰彩などの模様がなごと、色帯が無帯または2--型のみであること、臍孔が小さいことなどで区別できる。</p>					
⑥被害状況	<p>野菜類や観賞用植物に対する食害がありうる。</p>					
⑦必要な防除対策	<p>被害が生じる場合にはメタアルデヒド剤などが有効であると思われるが、まずは見つけたら捕殺するなどして、分布の拡大や定着を阻止することが重要である。</p>					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 中井克樹

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オナジマイマイ	学名	<i>Bradybaena similaris</i>	目科名	異鰓目オナジマイマイ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Da	国リスト カテゴリー	0
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Da	原産地	東南アジア
	導入・侵入年代	江戸時代	導入・侵入原因	農作物（サツマイモ等）に付着		
②分布範囲	全国	北海道、本州、四国、九州、小笠原、沖縄				
	府内	分布情報は限られているが、府下のほぼ全域の市街地・里地に生息すると思われる。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	殻径2-mm弱のマイマイ。耕作地や民家の庭先、花壇など、比較的乾燥気味の開けた環境に生息し、普通の陸産貝類が多い森林植生にはほとんど見られない。					
⑤近似種との見分方	在来のマイマイ属各種よりはるかに小型であるが、同サイズの幼貝とは多少似る。本種は、殻表面がなめらかで火焰彩などの模様がなく、色帯が無帯または-2--型のみであること、臍孔が小さいことなどで区別できる。					
⑥被害状況	野菜類や観賞用植物に対する食害がありうる。					
⑦必要な防除対策	被害が生じる場合にはメタアルデヒド剤などが有効であると思われるが、まずは見つけたら捕殺するなどして、分布の拡大や定着を阻止することが重要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	多那瀬・垂井（1972）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 中井克樹



©中井克樹

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	学名	<i>Pomacea canaliculata</i>	目科名	新生腹足目リンゴ ガイ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	南米
	導入・侵入年代	主に1980年代	導入・侵入原因	生きた除草剤としての意図的導入、食用目的の養殖放棄、水系伝いの自力または用水による分散		
②分布範囲	全国	本州（関東以南）、四国、九州、琉球列島				
	府内	府南部（伏見区、長岡京市、久御山町、宇治市、城陽市など）；京丹後市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、■農林水産業被害、■人身・健康被害、□生活被害 [影響内容] □上位捕食者となる、■植生への影響、■競合・駆逐、□遺伝子かく乱、 ■在来種への病気・寄生虫の媒介、■土壌・環境攪乱、■希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、■環境適応性が高い、■繁殖能力が高い、□拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、■被害が大きい、■特殊性、□回復困難性					
④生態的特性	最大で殻高8-mmにまで成長するが、環境によって2-mm程度でも成熟できる。雌雄異体で卵生。幅広い食性を持ち、植物の柔らかい部分を好むが、動物の死骸も食べる。					
⑤近似種との見分方	在来のタニシ類とは、殻が球形であること、派手なピンク色の卵塊を水上に産むことなどで見分けられる。					
⑥被害状況	稲の幼苗やレンコンなど水生の農作物を食害する。水田の場合、水深が深く苗が小さいほど被害が大きい。水田や水路に生育する植物も食べるため、絶滅危惧種の水田植物への影響が危惧される。他にも、沖縄以南では広東住血線虫の中間宿主となっていることが報告されており、注意が必要である。無農薬農法の圃場では、水田内に生育する植物相に大きな影響を与え、付随する水田動物相も大きく左右されることも指摘されている。					
⑦必要な防除対策	本種が多く生息し、被害の恐れがある水田では、田植え後2週間程度浅水管理をする。農薬も数種類登録されているが、他の軟体動物にも有害であるために安易な使用は慎むべきであり、京都府内では気候条件などから通常、散布の必要はないと思われる。ただし、分布の拡大を防ぐため、新たな場所には絶対に持ち込まないようにすべきである。最近、「生きた除草剤」としての導入の動きが中国地方等で確認されており、意図的な導入されることのないよう、注意・指導することが望ましい。さらに、色変わりの飼育品種が観賞用に流通しており、野外流出をさせないように、普及啓発の取り組みが重要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産淡水貝類図鑑2；外来種ハンドブック；九州沖縄農業研究センターのウェブページ					
⑩特記事項 ※該当にチェック	■IUCNワースト100、■日本生態学会ワースト100、□特定外来生物（外来生物法）、 *滋賀県では条例の指定外来種に指定されている。加えて、農林水産省の植物防疫法による検疫有害動植物として生きた個体の輸入が禁止されていたが、2014年に非検疫有害動植物となり輸入可能となった。					

(執筆者) 遊佐陽一・中井克樹

⑩分布図



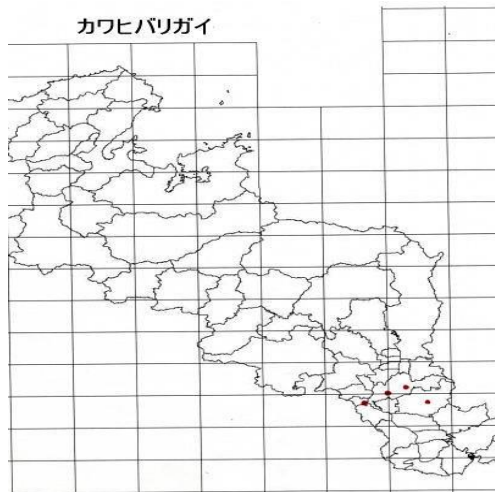
©遊佐陽一

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	カワヒバリガイ	学名	<i>Limnoperna fortunei</i>	目科名	イガイ目イガイ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	中国
	導入・侵入年代	1990年代	導入・侵入原因	輸入シジミに混入した個体の遺棄		
②分布範囲	全国	琵琶湖淀川水系、木曾川水系の下流部、矢作川水系、豊川水系下流部、天竜川水系、利根川・霞ヶ浦水系、那珂川水系				
	府内	宇治川、淀川、高山ダム（木津川）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input checked="" type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	成貝は殻長3-mm程度の細長いイガイ型で、足糸で礫や護岸などの基盤に付着する。雌雄異体で、6～8月に精子と卵を水中に放出し、幼生は浮遊生活を経て、稚貝として基盤に着底した後、固着生活を開始する。					
⑤近似種との見分方	河口付近にいるコウロエンカワヒバリガイは殻の全面が赤みを帯びた黒褐色で殻の前端がやや丸みを帯びるが、カワヒバリガイでは付着面に近い部分は黄褐色となり殻の前端がやや細長くなる。					
⑥被害状況	水道施設や農業用水施設、発電施設などにおいて、付着個体の成長や死殻の漂着による通水障害がみられる。また、本種を中間宿主とする腹口類の幼生がコイ科魚類に重篤寄生することによる水産被害も時々生じている。					
⑦必要な防除対策	分布域を拡大させないため、琵琶湖・淀川水系から物資や種苗を移動する際に、本種が混入しないような対策を採る必要がある。また、本種の定着水域においては、水中に受精卵や浮遊幼生が含まれることが想定される範囲を想定し、その範囲内においては本種による被害発生に対して予防的に備えておく必要がある。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産淡水貝類図鑑1・2、外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 近藤高貴・中井克樹

カワヒバリガイ

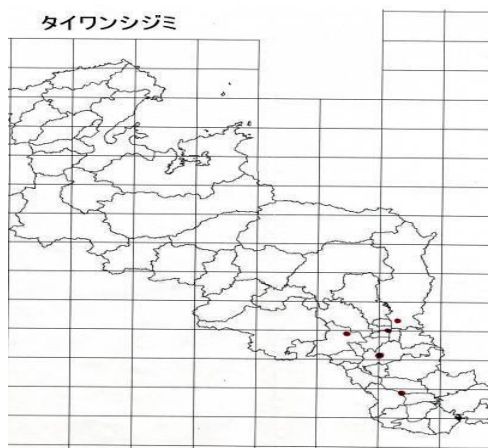


©近藤高貴

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タイワンシジミ	学名	<i>Corbicula fluminea</i>	目科名	マルスダレガイ目 シジミ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	中国
	導入・侵入年代	1980年代	導入・侵入原因	輸入シジミの遺棄		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）、四国、九州、琉球列島				
	府内	琵琶湖疏水、鴨川、宇治川、木津川、桂川				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	河川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。雌雄同体の卵胎生で、春から秋にかけて繁殖する。2～4倍体で、配偶子形成時に減数分裂せず、雄性発生する。					
⑤近似種との見分方	マシジミに似るが、色彩は黄色やオリーブ色などの淡色系が多く、殻表面の成長脈はマシジミより広い。					
⑥被害状況	在来種のマシジミと急速に入れ替わりが生じることがある。、農業水利施設に大量に発生した場合、バルブ等を閉塞させることがありうる。					
⑦必要な防除対策	輸入シジミの流通状況の把握が必要。実際に生きた個体の放出にどのような主体がかかわっているのかを解明する必要がある。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産淡水貝類図鑑1・2、外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 近藤高貴



©近藤高貴

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コモチカワツボ	学名	<i>Potamopyrgus antipodarum</i>	目科名	新生腹足目ミズツボ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ad	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ad	原産地	ニュージーランド
	導入・侵入年代	1980年代	導入・侵入原因	魚類種苗もしくは観賞用生物に混入		
②分布範囲	全国	本州（関東から近畿），九州（一部）				
	府内	未確認（滋賀県・琵琶湖水系では複数個所に定着）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、■農林水産業被害、□人身・健康被害、□生活被害 [影響内容] □上位捕食者となる、□植生への影響、■競合・駆逐、□遺伝子かく乱、 □在来種への病気・寄生虫の媒介、□土壌・環境攪乱、■希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、■環境適応性が高い、■繁殖能力が高い、■拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、□被害が大きい、■特殊性、■回復困難性					
④生態的特性	殻高6mm程度の小型の巻貝で、既知の日本産の個体はすべて、和名のとおりメスの単為生殖による卵胎生である。主に流水環境に生息する。国内の定着状況から、あまり高温になる水域での定着は難しいと推測されるが、海外では汽水環境にも見られる。					
⑤近似種との見分方	殻の地色がいくらか褐色を帯びた乳白色で、模様等がなく単色であるなど、同一環境に生息する種との識別は容易である。むしろ、生息環境によっては殻の周囲に短い棘をめぐらすなど種内変異に注意する必要がある。					
⑥被害状況	国内河川の中流部では、川底の岩石の表面に非常に高密度で着生することがあり、同所的に生息する他の庭生動物やそれらを餌とする魚類等に対する生態的影響が懸念される。					
⑦必要な防除対策	国内侵入初期は、魚類の養殖種苗への混入が侵入経路と推定されたが、現在は、インターネット上などで小型の本種がゲンジボタル幼虫の初期餌料として有効であるとされ、各地のホテルの保護・増殖の現場で安易に導入される可能性を最も用心すべき状況になっている。いったん定着すると、有効な被害防止策は現時点ではない。ウェーダーや漁具などに付着して水系間を移動する可能性が指摘されており、すでに定着した水域からの拡大に留意すべきである。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	Ponder (1988) 増田ほか (1998) 西野 (1999) The New Zealand Mudsnaill Management and Control Plan Working Group (2006) 浦部 (2007)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	□IUCNワースト100、□日本生態学会ワースト100、□ 特定外来生物（外来生物法）、 *滋賀県では条例の指定外来種に指定されている。過去の文献では「ジェンキンスカワツボ、ニホンカワツボ、サクヤマカワツボ」とされてきたのが本種である。学名もイギリス産に与えられていた <i>P. jenkinsi</i> が本種の異名同物とされた。					

(執筆者) 中井克樹

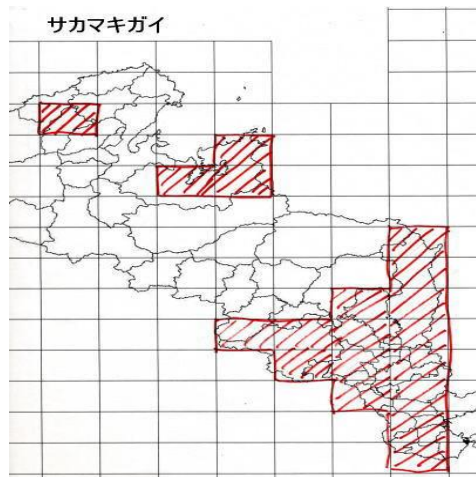


©石綿進一

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	サカマキガイ	学名	<i>Physella acuta</i>	目科名	異鰓目サカマキガイ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Da	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Da	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1930年代	導入・侵入原因	観賞用水生植物に付着した個体の逃亡・遺棄		
②分布範囲	全国	北海道南部，本州，四国，九州，琉球列島				
	府内	中部・北部の分布情報は限られているが、ほぼ全域に分布するものと推測される。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	成貝は殻高1-mm前後の大きさで、水田・用水路・池沼など生息域は広く、かなり汚れた水域にまで生息する。春から秋にかけて、礫や水草などにゼラチン状の卵塊を産み付ける。					
⑤近似種との見分方	モノアラガイに似ているが、殻は左巻きで、触角は細長い。					
⑥被害状況	水田や水路等、水域内での被害状況は不明であるが、浄水施設等に侵入し大量発生することがあり、その場合には施設の維持管理上の問題が生じることがあるとされている。					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産淡水貝類図鑑1・2，外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 近藤高貴・中井克樹



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コシダカヒメモノアラガイ	学名	<i>Fossaria truncatula</i>	目科名	異鰓目モノアラガイ科
	カテゴリー(2019)	情報不足種	タイプ(2019)	Da	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	情報不足種	タイプ(2005)	Da	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	観賞用水生植物に付着した個体の逃亡・遺棄		
②分布範囲	全国	北海道, 本州, 四国, 九州				
	府内	八幡市, 舞鶴市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	成貝は殻高5mm程度の大きさを、水田の畦や湿地などの水際に生息する。春から秋にかけて、礫や水草などにゼラチン状の卵塊を産み付ける。					
⑤近似種との見分方	ヒメモノアラガイに比べると、螺塔はやや高く、殻口は殻高の約半分と小さい。通常、水路の水面上の壁面など、水の中よりは水面上の水際に見られることが多く、他のモノアラガイ科貝類とは生息環境がいくらか違う。					
⑥被害状況	不明					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産淡水貝類図鑑1・2					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 近藤高貴・中井克樹



©近藤高貴

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハブタエモノアラガイ	学名	<i>Pseudosuccinea columella</i>	目科名	異鰓目モノアラガイ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Da	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Da	原産地	北米
	導入・侵入年代	1980年代	導入・侵入原因	観賞用水生植物に付着した個体の逃亡・遺棄		
②分布範囲	全国	本州（関東から中国地方）、四国				
	府内	府南部（京都市、亀岡市、木津町）、舞鶴市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	殻高1-mm程度の大きさで、ため池や浅い水路の水面付近から陸上にかけての微環境に生息する。春から秋にかけて、礫や水草などにゼラチン状の卵塊を産み付ける。					
⑤近似種との見分方	他のモノアラガイ類と比べると、螺塔が高く、殻口が細長い。殻の表面に成長脈と細かい螺状脈とが交差した微細な網目状模様があり、和名の由来となっている。また、同様の環境に生息する陸産貝類のナガオカモノアラガイと類似するが、殻表の微細彫刻がないことや、螺塔部があまり尖らないこと、触角の先端が丸く膨れて眼があること等により、本種と区別できる。					
⑥被害状況	不明					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産淡水貝類図鑑1・2					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 近藤高貴・中井克樹



この写真はナガオカモノアラガイ

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オリレサカマキガイ	学名	<i>Amerianna carinata</i>	目科名	異鰓目ヒラマキガイ科
	カテゴリー(2019)	情報不足種	タイプ(2019)	Db	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	情報不足種	タイプ(2005)	Db	原産地	オーストラリア
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	観賞用水生植物に付着した個体の逃亡・遺棄		
②分布範囲	全国	愛知県, 京都府, 福岡県, 沖縄県				
	府内	貴船川（生息数の規模）過去の採集記録があるのみ				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	殻高5～1-mmの卵形で、用水路や河川に生息する。					
⑤近似種との見分方	サカマキガイと同じく左巻きだが、螺塔は低く、体層周縁の肩部は角張る。					
⑥被害状況	不明					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産淡水貝類図鑑2					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 近藤高貴

